

## 消防職員の災害時の食料

# 未整備から配備へ

大規模な災害の発生時、第一線で活動を担つてくれる市消防職員(約400人)に対する食料備蓄の状況について質問し、市は予算化

を行い、7日間分計1万食の準備を行つていく方針を明らかにしました。

私は災害に対する活動にあた

り、食料備蓄の早急な整備を

かとしました。市は「活動用

食糧費としての予算化は過去に

なく、現時点では職員自らが準備

する食料に頼らざるを得ない」と

説明。

新年度は、長期保存が可能な「ア

ルフア米」や「備蓄用保存水」など

することや、児童生徒が自らま

さまにデータを活用できるよう、

するようにしていく考え方を示しま

した。

不登校児童生徒への支援につ

いては、市は増加傾向にあり

ました。

和3年4月には東部地域に公設の

フリースクール「HOP青山」を整

備したが、西部地域における新たな

支援拠点「HOPあやめ池(仮称)」

を開設して運営していく準備を進

めていくことを明らかにしました。

ICTの活用は「きめ細かく児

童生徒の学習の状況を把握・分析

することや、児童生徒が自らま

さまにデータを活用できるよう、

するようにしていく考え方を示しま

した。

私は、食料備蓄の早急な整備を

はじめ、消防職員の増員や施設の

充実なども併せて取り組んでいく

らかにしました。

私は、食料備蓄の早急な整備を

はじめ、消防職員の増員や施設の